

取扱説明書

ルームエアコン

(室内・家庭用)



室内機 型番：	室外機 型番：
IHF-2206G	IHR-2206G
IHF-2506G	IHR-2506G
IHF-2806G	IHR-2806G
IHF-3606G	IHR-3606G
IHF-4006G	IHR-4006G
IHF-5606G	IHR-5606G
IKF-223G	IKR-223G

最新の取扱説明情報は当社 WEB サイトでご覧いただけます。

<https://www.irisohyama.co.jp/products/electrical-appliances/large-appliances/air-conditioner/standard-aircon/standard-air-conditioning-g-series>



日本国内専用 (FOR USE IN JAPAN ONLY)

このたびは、お買い上げいただきまことにありがとうございます。

- この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
- 使用する前に「安全上の注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書はお使いになる方がいつでも見ることができるよう、大切に保管してください。
- 「保証書」は「お買い上げ日」「販売店名」の記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

ご使用の前に

安全上の注意	3
使用上の注意	6
各部の名称・準備	7

使いかた

使いかた

基本的な使いかた	10
温度を設定する	11
風量を設定する	11
風向を調節する	11

その他の機能

しずかモード	12
おやすみモード	13
切タイマー	14
入タイマー	14
手元温度	15
内部清浄モード	15
試運転	15

お手入れ

お手入れ

エアフィルター	16
室内機表面	16
前面パネル	17
長期間使用しないときは	17

こんなときは

こまったときは・・・	18
表示パネルに英数字のコードが表示されたら・・・	19

アフターサービスとその他の内容

長期使用製品について	20
仕様	21
保証とアフターサービス	23

安全上の注意

最初に、この「安全上の注意」をよく読んでいただき、正しく使用してください。
人への危害や、財産への損害を未然に防止するため、必ず守る必要があることを説明しています。

図記号の意味



注意を促す記号です。



禁止を示す記号です。



必ず行うことを示す記号です。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う
おそれがある内容を示しています。

電源プラグ・電源コードについて



- 電源プラグのほこりは定期的に取り除く
ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良になり、火災・感電の原因になります。
- 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
ショートによる火災・感電の原因になります。
- 電源は必ずルームエアコン専用のコンセントに接続する
他と共用のコンセントや古いコンセントは使用しないでください。火災・感電の原因になります。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしない
感電・やけど・けがの原因になります。



- 電源コードをたばねて通電しない
過熱してやけど・火災の原因になります。電源コードは、必ずのばして使用してください。
- 電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使わない
ショートによる火災・感電の原因になります。電源コードが破損したときは、アイリスコールへお問い合わせください。
- 電源コードを傷つけない
- 電源コードをステーブルなどで固定しない
傷つける、加工する、無理に曲げる、引っ張る、ねじる、重い物を載せる、挟み込むなどしないでください。
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。
- 延長コードは使用しない
- 電源コードを抜いてエアコンを停止しない
火災・感電の原因になります。

設置について



- 設置・移設はお買い上げの販売店または設置専門業者に依頼する
自分で行うと、火災・破裂・感電・けが・水もれの原因になります。
- アース工事は販売店または専門業者に依頼する
アースが不完全だと、感電の原因になります。
- 室内機の配管取り出し口が、移設などで開いてしまったときは、開口部をふさぐ
内部の回路に触れると、感電・けが・やけどのおそれがあります。



- アース線は、ガス管や水道管、電話線や避雷針のアース線には絶対に接続しない
爆発・火災の原因になります。
- 指定の冷媒（R32）以外は使用禁止
本製品はR32専用です。他の冷媒と混ぜると有害な不純物が発生する可能性があります。

異常時には



プラグを抜く

- 直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜く
発煙・火災・感電のおそれがあります。
【異常の例】
 - ・ 内部に水・異物などが入った
 - ・ 異常な音やにおいがする
 - ・ 変形したり、ひび割れしたりしている
 - ・ 電源プラグ・電源コードが異常に熱くなる
 - ・ 電源コードを動かすと、通電したりしなかったりする
 - ・ 触れるとビリビリ電気をを感じる➡使用を中止し、お買い上げの販売店またはアイリスコールへお問い合わせください。

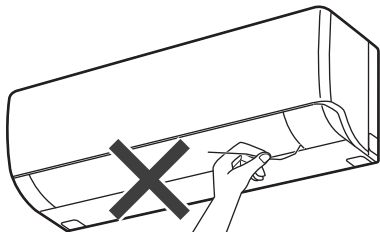
安全上の注意

禁止事項



- 吹出口・吸気口・すき間から物や手を入れない

内部には高速回転するファンや高電圧部があるので、感電やけがの原因になります。



水ぬれ禁止

- 室内機本体を水につけたり、本体に水をかけない

火災・感電の原因になります。



注意

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生するおそれがある内容を示しています。

リモコンの電池についての注意



- 電池を入れるときは、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、説明書の通りに正しく入れる

間違えると、破裂・液もれにより、火災やけが、周囲を汚損する原因になります。

- 長期間使用しないときは電池を取り出しておく

液がもれて、火災やけが、周囲の汚損の原因になります。

液がもれた場合は、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。万一、もれた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。



分解禁止

- 分解しない

皮膚や衣服を損傷することがあります。



- 金属製の小物類と一緒に携帯・保管しない

ショートして液もれや破裂の原因になることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない

過熱・破裂・液もれにより、火災やけが、周囲を汚損する原因になることがあります。

- 乾電池は絶対に充電しない

破裂・液もれにより、火災・けが・やけどの原因になります。

室内機について



- 室内機の下に他の電気製品や家財を置かない

水滴が落ちることがあり、汚損や故障の原因になります。

- 室内機の上に物を載せない

- 室内機に洗濯物などをかけない

落下して、けがや火災の原因になります。また、風の流れをふさぐと、過熱して火災の原因になります。

- 吹出口・吸気口を布や紙、ビニール袋でおおったりふさいだりして運転しない

- 風の流れをさえぎるようなものを周囲に置かない

過熱して火災の原因になります。

お手入れについて



- 前面パネルやエアフィルターを水洗いしたときは、水気を拭き取って、よく乾かしてから取り付ける（P16、17）

水気が残っていると感電の原因になります。



- お手入れのときは、不安定な台に乗らない

転倒してけがの原因になります。

- 室内機内部の金属部に触れない

けがをするおそれがあります。

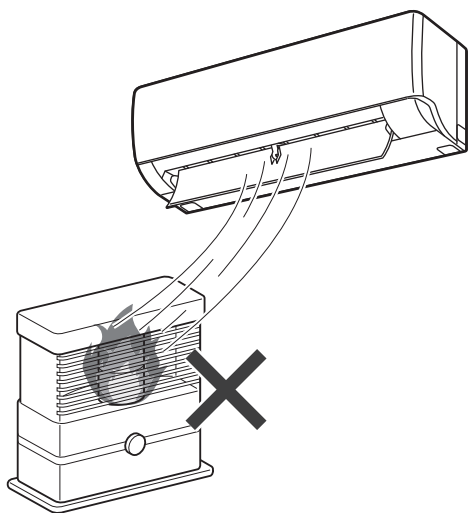


- 食品・医薬品・美術品・学術資料の保存など、業務・特殊用途に使用しない
本製品は家庭用として設計されています。業務・特殊用途に使用すると、保存品の劣化の原因になります。

- 長時間冷風を身体に当てない
- 冷房温度を下げすぎない
特に、小さなお子様やお年寄りには注意してください。体調が悪化したり健康を害する原因になります。

- 動植物に直接風を当てない
害を与えるおそれがあります。

- 風をストーブなどの燃焼器具に向けない
不完全燃焼や炎の飛散を引き起こし、一酸化炭素中毒や火災の原因になります。



- 煙や霧が出るくん煙タイプの殺虫剤を使うときは運転しない
エアコン内部に薬剤成分が蓄積し、その後の運転で放出されて、健康を害するおそれがあります。
殺虫剤の使用後は、十分換気してから運転してください。
- 床にワックスがけをするときは運転しない
エアコン内部にワックス成分が付着し、水もれの原因になります。ワックスがけの後は、十分に換気してから運転してください。



- 燃焼器具と一緒に使う場合は換気する
一酸化炭素中毒の原因になります。
※ 本製品は、一酸化炭素などの有害物質を除去するものではありません。

ドレン水について



- ドレン水（エアコンから発生する水）が確実に排水されていることを確認する
水もれして周囲を汚損する原因になります。特に、冷房シーズンの初めには注意してください。ドレンホース（排水管）の勾配が適切に付いていなかったり、詰まっていたりすると水もれの原因になります。

電源プラグ・電源コードについて



- 長期間使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
絶縁低下により、火災・感電の原因になります。
- お手入れするときは、必ず運転を停止して、電源プラグを抜く
けがの原因になります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

異常時は



- エアコンを運転しても冷えない・暖まらないときは、販売店または修理専門業者に相談する
冷媒がもれているおそれがあります。冷媒自体は無害ですが、室内にもれて、他のガスと混合したり、火気に触れたりすると、有害な成分が発生する原因になります。

室外機について



- 年に一度は、室外機の設置台などが傷んでいないか確認する
落下・転倒によるけがの原因になります。



- 上に乗ったり、物を載せたりしない
落下・転倒によるけがの原因になります。
- 室外機をシートなどでおおったり、周囲に物を置いたりしない
過熱して火災の原因になります。
- 室外機の周囲にごみや落ち葉をためない
小動物が侵入し、漏電や火災の原因になります。

使用上の注意

- 暖房運転時、室外機に霜が付いた場合は、自動で霜取りを行います。
霜取り運転中は、暖房が停止し、室内機から冷風が出ることがあります。霜が溶けるときに、室外機から湯気や水が発生することがあります。
- 落雷のおそれのあるときは、運転を停止し、電源プラグを抜いてください。
落雷すると故障の原因になります。

廃棄について

- 製品や梱包材の廃棄については、お住まいの自治体の取り決めにしたがって処理してください。
- この機器は安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人（子供を含む）が単独で機器を用いることを意図しておりません。
- この機器で遊ぶことがないように、子供に注意してください。
- 機器の設置は、国の配線規則に従って行ってください。

冷媒に関する注意



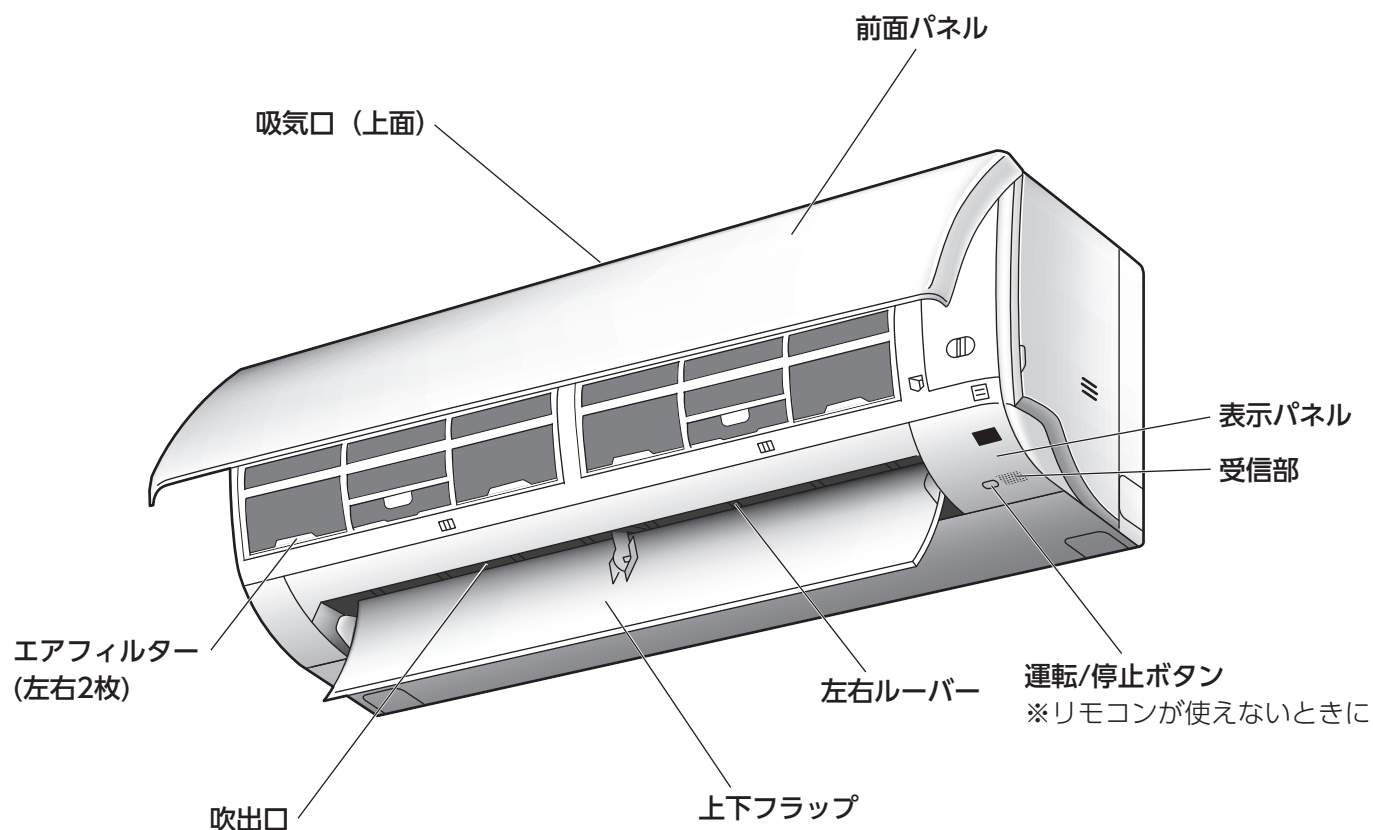
この家庭用エアコンには、GWP（地球温暖化係数）が675のフロン類（R32）が封入されています。フロン類が排出されると地球温暖化が進みます。移設・修理・廃棄するときは、フロン類の回収が必要です。

廃棄に関する注意

家電リサイクル法では、お客様が使用済みのルームエアコンを廃棄される場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金をお支払いいただき、対象商品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

各部の名称・準備

室内機



ご使用の前に

表示パネル

実際の表示は、浮かび上がるように表示されます。

内部清浄ランプ

内部清浄モードが動作すると点灯します。

電源ランプ

電源を入ると点灯します。

運転/停止ボタン

※リモコンが使えないときに



エラー/手元温度表示部

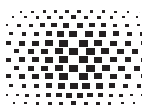
異常時、エラー内容を表示します。
リモコンの手元温度ボタンを押すと、現在の温度を表示します。

タイマーランプ

タイマーを設定すると点灯します。



運転/停止

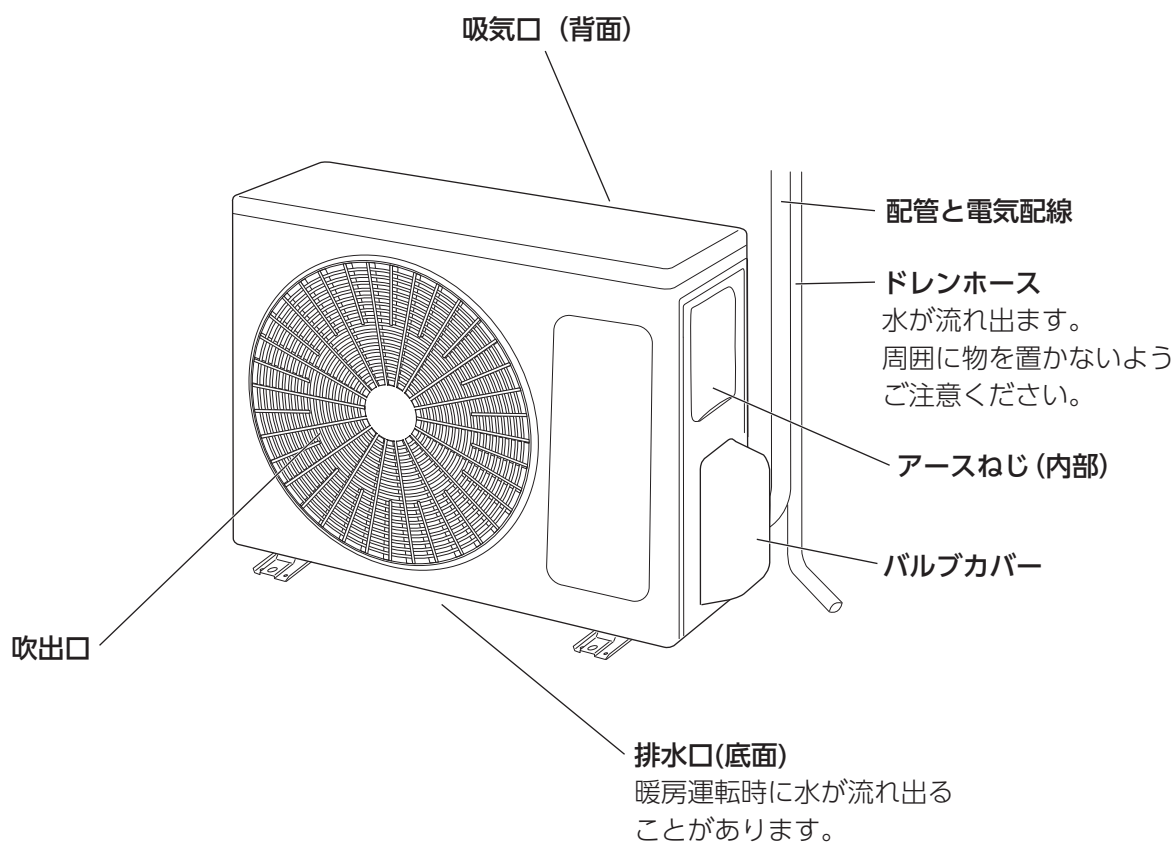


受信部

リモコンからの信号を受信します。

各部の名称・準備

室外機



リモコン

送信部

室内機表示パネルの受信部に向けて操作してください。

運転モードボタン

選んだモードで運転が始まります。運転中に押すと、選んだモードに切り替わります。(P10)

風量ボタン

運転中に押すと、風量が切り替わります。(P11)

しずかボタン

最も弱い風量で静かに運転します。(P12)

内部清浄ボタン

(P15)

おやすみボタン

おやすみモードで運転します。おやすみモード運転は8時間です。(P13)

タイマーボタン

切タイマーと入タイマーの設定ができます。(P14)
取消ボタンを押すと、取り消されます。

表示部

運転の状態などを表示します。

温度 $\wedge$ / $\vee$ ボタン

運転中に設定温度を変更します。
16 ~ 30℃の範囲で設定できます。(P11)

上下、左右風向ボタン

上下または左右の角度を変更します。
運転を停止すると上下フラップは閉じ、左右ルーバーはお好みの位置で止まります。(P11)

手元温度ボタン

室内機表示パネルに現在温度が表示されます。しばらくすると表示は消えます。(P15)

リモコンの電池交換方法

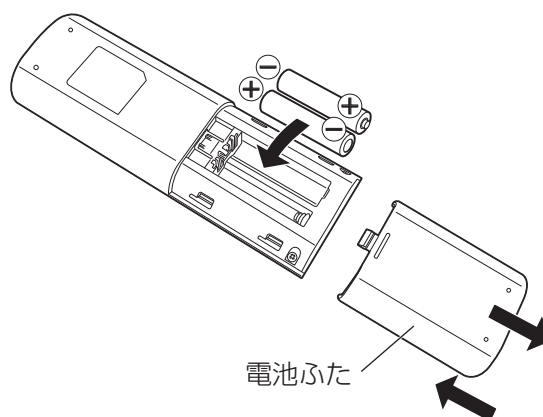
リモコンの表示部に $\square$ マークが点灯したときは、早めに電池を交換してください。新しい電池（単4形乾電池×2本）を用意し交換してください。

- 1 電池ふたを押さえながら下にずらす
- 2 古い電池を取り出し、新しい電池を入れる
- 3 電池ふたを閉める



注意

- 電池を誤って取り扱うと、破裂・液もれ・やけど・周囲の汚損の原因になります。「リモコンの電池についての注意」をよく読んで使用してください。(P4)
- 新旧、異種の電池を混ぜて使用しないでください。



電池ふた

使いかた

ほとんどの操作はリモコンで行います。

使用時のご注意

- エアフィルターが確実に取り付けられていることを確認してください。
- リモコンの送信部を、本体の受信部に向けて操作してください。
- 本体の受信部正面から、受信できる距離で操作してください。（正面で約5m以内）角度や距離によっては信号が受信できないことがあります。

基本的な使いかた



1

自動 ・ 冷房 ・ 暖房 ・ 除湿 ・ 送風 のいずれかの運転モードボタンを押す

表示パネルの電源ランプが点灯し、選んだモードで運転が始まります。



運転中に他の運転モードボタンを押すと、モードが切り替わります。

各種モード

自動

- ・ 20 ～ 25℃を目標に、自動で冷暖房を切り替えて運転します。（風量設定は3段階と自動に設定できます。）

冷房

- ・ 設定した温度を目標に冷房運転し、温度設定・風量設定ができます。
 - ・ **風量自動**に設定した場合、風量を自動で切り替えて運転します。
- ※ 室内機・室外機の運転音が大きくなる場合があります。

暖房

- ・ 設定した温度を目標に暖房運転し、温度設定・風量設定ができます。
 - ・ **風量自動**に設定した場合、風量を自動で切り替えて運転します。
- ※ 室内機・室外機の運転音が大きくなる場合があります。
- ※ 室外機に霜が付く場合があるため、自動で霜取りを行います。霜取り運転中は、暖房が停止します。

除湿

- ・ 風量1で除湿運転します。（手動で風量設定はできません。）
- ・ 部屋を暖めることはできません。

送風

- ・ 送風運転します。（風量設定は3段階と自動に設定できます。）

2

停止 を押して運転を停止する

表示パネルの電源ランプが消灯し、上下フラップが閉じて、運転が停止します。



温度を設定する

↑ または ↓ を押す

運転中（自動モードを除く）に ↑ または ↓ を押すと、設定温度が変更されます。

22°C

！ポイント

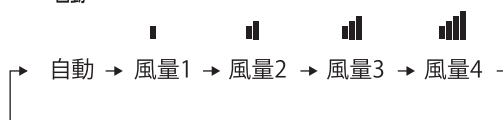
- 16 ~ 30°Cの範囲で設定できます。

風量を設定する

風量 を押す

自動、冷房、暖房または送風運転中は 風量 を押すたびに風量が切り替わります。

自動



！ポイント

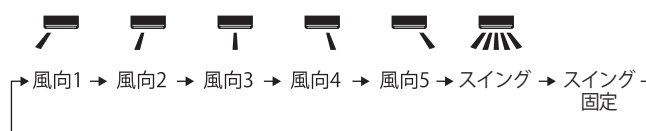
- 自動、除湿、送風は、風量 にできません。

風向を調節する

左右風向 または 上下風向 を押す

左右風向

- ・ 運転中に 左右風向 を押すと、左右ルーバーの角度を変更できます。
- ・ スイング中にもう一度 左右風向 を押すと好みの位置で左右ルーバーが止まります。



上下風向

- ・ 運転中に 上下風向 を押すと、上下フラップの角度を変更できます。
- ・ スイング中にもう一度 上下風向 を押すと好みの位置で上下フラップが止まります。



その他の機能

使用時のご注意

- エアフィルターが確実に取り付けられていることを確認してください。
- リモコンの送信部を、本体の受信部に向けて操作してください。
- 本体の受信部正面から、受信できる距離で操作してください。（正面で約5m以内）角度や距離によっては信号が受信できないことがあります。

しずかモード



1

自動 ・ **冷房** ・ **暖房** ・ **送風** のいずれかの運転モードが選択されていることを確認する

！ポイント

- 除湿モードでは使用できません。

2

しずか を押す

運転中に **しずか** を押すと、最も弱い風量に切り換わります。

！ポイント

最も弱い風量に切り換わるのに少し時間がかかります。

しずかモードを終了するには

風量 を押してお好みの風量に設定してください。



冷房時は徐々に温度を上げ、暖房時は徐々に温度を下げて、急激な温度変化をなくし、快眠をサポートする機能です。

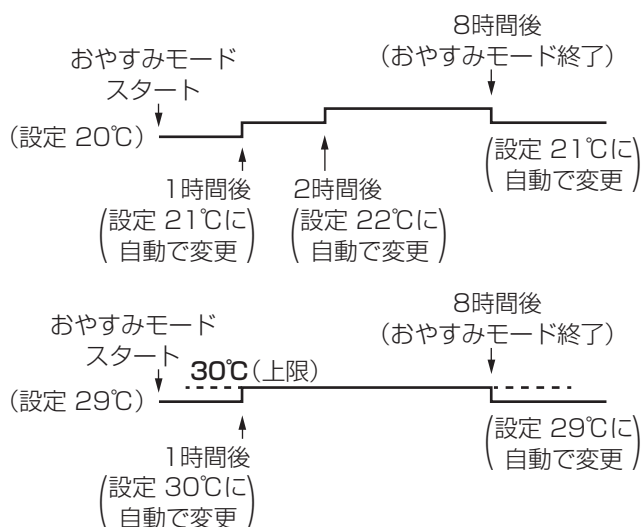
おやすみモード

おやすみを押す

- ・リモコンの表示部に**おやすみ**が点灯します。
- ・終了するには、再度 **おやすみ** を押してください。リモコンの表示部の**おやすみ**が消灯します。

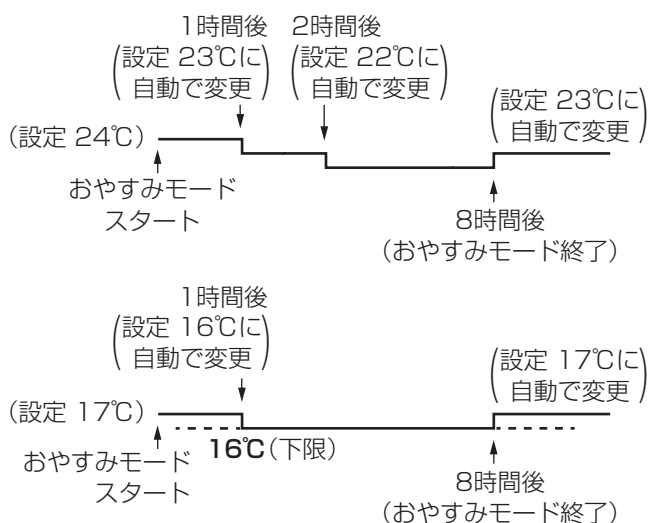
冷房運転の場合

- ・風量は自動になり、2時間後まで1時間ごとに1℃設定温度を上げて運転します。(最高30℃まで)
- ・8時間経過すると、おやすみモードは終了します。その後、8時間後の設定温度を1℃下げて継続運転します。



暖房運転の場合

- ・風量は自動になり、2時間後まで1時間ごとに1℃設定温度を下げて運転します。(最低16℃まで)
- ・8時間経過すると、おやすみモードは終了します。その後、8時間後の設定温度を1℃上げて継続運転します。



！ポイント

- 自動・除湿・送風モードでは使用できません。

その他の機能



切タイマー

運転中に [切タイマー] を押す

- [切タイマー] を押すたびに、リモコンの表示部に時間が表示され、タイマーがスタートします。

表示例：5^切

- 設定時間が経過すると、室内機の電源ランプが消灯し、上下フラップが閉じて、運転が停止します。
- 1時間単位で24時間まで設定できます。
- タイマー動作中は、表示パネルの**タイマーランプ**が点灯します。



タイマーを取り消すには

- [取消] を押してください。設定されていたタイマーはキャンセルされ、**タイマーランプ**は消灯します。

入タイマー

設定したいモード・温度・風量・風向で運転した後、を押してから [入タイマー] を押す

- [入タイマー] を押すたびに、リモコンの表示部に時間が表示され、タイマーがスタートします。

表示例：12^入

- 設定時間が経過すると、表示パネルの**電源ランプ**が点灯し、上下フラップが開いて、運転が始まります。
- 1時間単位で24時間まで設定できます。
- タイマー動作中は、表示パネルの**タイマーランプ**が点灯します。



タイマーを取り消すには

- [取消] を押してください。設定されていたタイマーはキャンセルされ、**タイマーランプ**は消灯します。



手元温度

リモコン周辺の室温をエアコンの表示パネルに表示します。

運転中に **手元温度** を押す

運転中に **手元温度** を押すと、表示パネルにリモコンで測定した温度が表示されます。しばらくすると表示は消えます。

！ポイント

- 部屋の大きさの違いやリモコンの位置によって、手元温度と設定温度の差が大きい場合があります。

内部清浄モード

内部を清潔に保つための機能です。

① **内部清浄** を押す

- ・ リモコン表示部に**内部清浄**が点灯します。
- ・ 一度設定すると、解除するまで有効です。
解除するには再度 **内部清浄** を押してください。リモコン表示部の**内部清浄**が消灯します。
- ・ 運転開始後でも、停止中でも、設定可能です。
- ・ エアコンを停止しないと内部清浄モードは開始しません。

② 冷房または除湿を10分以上運転後 **停止** を押し、エアコンを停止させる

- ・ エアコン本体の表示パネルに内部清浄ランプが表示され、内部清浄モードが開始します。



！ポイント

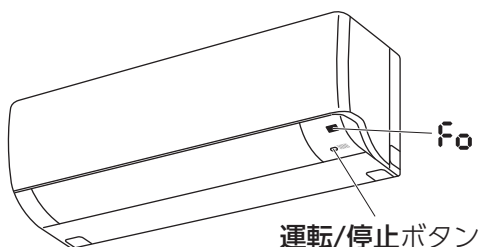
- 内部清浄モードでは送風10分、温風10分運転します。
- 内部清浄モード中は、上下風向が (風向1) になります。

内部清浄モードを途中で停止するには

- ・ **停止** を押してください。

試運転 (必ず行ってください)

- ① 本体の**運転/停止**ボタンを5秒以上押し続けると「F0」と表示され、強制冷房運転をします。約25分後、「F0」の表示は消えますが、冷房運転は続きます。
※ 強制暖房運転はできません。
- ② 停止するときは、本体の**運転/停止**ボタンをもう一度押してください。



試運転中に下記症状になった場合は、ご確認ください

「E6」表示：ユニット間配線が正しいか。
「PH」表示：電圧が正しいか。
冷風が出ない：2方弁、3方弁が開いているか。

お手入れ

使用後は機能低下や故障を防ぐために定期的にお手入れしてください。

i お問い合わせ

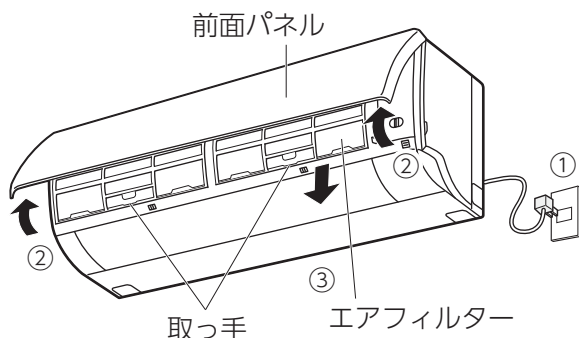
- 内部の洗浄は自分で行わないでください。誤った方法で内部の洗浄を行うと、破損して火災や感電の原因になります。エアコン内部の洗浄は専門の業者に依頼してください。
- お手入れのときは、不安定な台に乗らないでください。
- エアフィルターを水洗いしたときは、十分に乾かしてから取り付けてください。
- 室内機内部の金属部に触らないでください。
- シンナー、アルコール、ベンジン、アルカリ性・酸性の強い洗剤、漂白剤などは使用しないでください。

エアフィルター

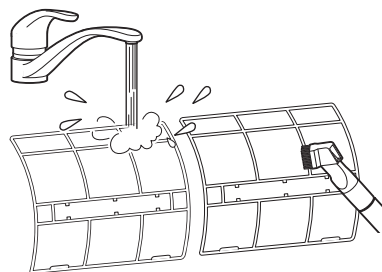
2週に1回程度

1 前面パネルを開け、エアフィルターを外す

- ① 運転を停止し、電源プラグを抜いてください。
- ② 前面パネルの左右側面を持ち、手前に引き上げてください。
- ③ エアフィルターの取っ手を少し持ち上げて、引き抜いてください。



2 ほこりを掃除機などで吸い取るか、水洗いする



※水洗いした後は、よく乾かしてから取り付けてください。

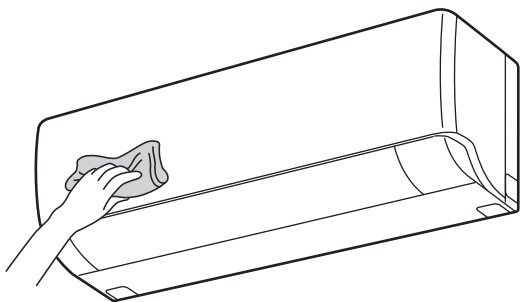
取り付けかた

- ・取り外しの逆の手順で行ってください。

室内機表面

汚れたら

水またはぬるま湯（40℃以下）を含ませたやわらかい布をよく絞って、汚れを拭き取ってください。汚れが落ちにくいときは、薄めた中性洗剤を含ませた布で拭いた後、固く絞った布などで洗剤分を拭き取ってください。



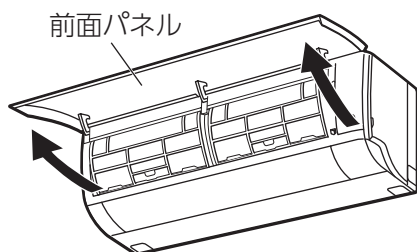
i お問い合わせ

- 水をかけないでください。感電・けが・故障の原因になります。
- 化学ぞうきんを使用する際は、その注意書きにしたがってください。

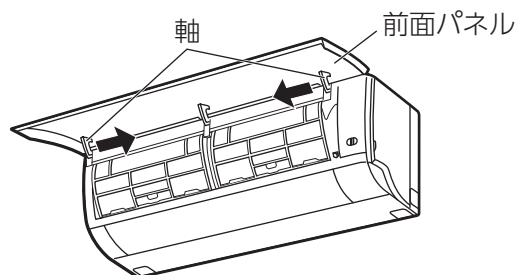
前面パネル

汚れたら

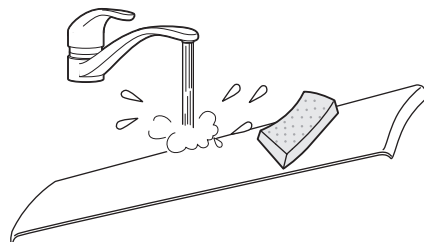
1 前面パネルを開ける



2 左右の軸を内側に押し、前面パネルを手前に引き抜く



3 取り外した前面パネルをやわらかいスポンジなどで水洗いする



取り付けかた

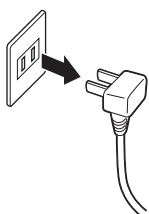
・ 取り外しの逆の手順で行ってください。

長期間使用しないときは

1 内部を乾燥させる

・ 風量3、上下風向  (スイング) で、3～4時間送風運転を行ってください。

2 運転を停止し、電源プラグを抜く



※ 型式によって電源プラグ形状は異なります。

3 エアフィルターのお手入れをする (P16)

4 リモコンの電池を抜く (P9)

再び使い始めるときは

1 エアフィルターが取り付けられていることを確認する

2 室内機・室外機周囲がふさがれていないか確認する

3 リモコンに電池を入れる (P9)

4 電源プラグをコンセントに接続する

こまったときは・・・

使用中に異常が生じた場合は、修理を依頼される前に本書をよくお読みの上、以下の点を確認してください。

状態	原因・処置
電源が入らない	電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていません。電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
	ブレーカーが切れています。エアコンの回路のブレーカーを入にしてください。
風が止まる	暖房運転中、室外機の自動霜取りが働くと、温風が停止しますが、自動霜取りが終了すると、運転が再開します。
	暖房運転中、設定温度に達すると、風が止まることがあります。温度調節をしているためで、故障ではありません。
暖房なのに冷たい風が出る	暖房運転時、室外機が自動霜取りをすると冷たい風が出ることがありますが、故障ではありません。自動霜取りが終了すると、暖房運転に戻ります。
リモコンで操作できない	約5m以内の距離で、リモコンの送信部を、室内機の受信部に向けて、できるだけ受信部の正面から操作してください。
	リモコンの電池が消耗しています。リモコンの電池を交換してください。(P9)
	電池の向きが合っていない。電池を正しい向きにセットしてください。(P9)
	リモコンの送信部と本体の受信部の間に障害物があります。障害物を取り除いてください。
風量の変更できない	除湿モードで運転しているため、風量は自動でコントロールされます。
風量が弱い	運転モードが冷房・暖房・送風・自動の場合、風量自動で運転中は、部屋の温度が設定温度に近づくと風量が弱まります。また、除湿モードでは設定温度に関係なく一番弱い風量で運転します。
	エアフィルターにほこりなどが詰まっています。エアフィルターをお手入れしてください。(P16)
上下フラップが全閉しない	手で上下フラップを動かすと、停止したときに、上下フラップが全閉しないことがあります。電源プラグを抜いてもう一度差すと全閉します。
室内機から霧が出る 室内機に水滴が付く	湿度の高い空気が急に冷やされると、霧が出たり、水滴が付いたりすることがありますが、故障ではありません。 雨の日など、湿度が高いときに冷房する場合は、窓やドアを開けっ放しにしないでください。
室外機から湯気や水が出る	暖房運転時、室外機が自動霜取りをすると湯気や水が発生することがありますが、故障ではありません。
「ポコポコ」という音をする	ドレンホースの水が逆流しているためです。部屋の内外の気圧差が大きいと、水が逆流することがあります。窓を少し開けて気圧差を減らすか、ドレンホースに逆流防止弁を取り付けるとなることがあります。
「プシュッ」という音をする	運転の停止や切り替え時に、冷媒の流れが切り替わるため、故障ではありません。
「ピシッ」「パキッ」という音がする	温度変化で樹脂部分が伸び縮みしているため、故障ではありません。
設定温度が変わる	おやすみモードで運転しているためです。おやすみモードは運転中、設定温度が徐々に変わります。(P13)

状態	原因・処置
風がにおう	定期的に内部清浄モードを動作させてください。(P15)
	エアフィルターをお手入れしてください。(P16)
	内部清浄モードやフィルターのお手入れをしてもにおいなどが取りきれない場合は、業者に洗浄を依頼してください。
部屋が冷えない・暖まらない	部屋が面積の目安より広すぎます。仕切りをして部屋を区切るなど、面積の目安内で使用してください。
	窓やドアが開けっ放しになっているためです。窓やドアを閉めて使用してください。
設定温度を変更できない	自動モードで運転しているためです。自動モードでは、設定温度は自動でコントロールされます。(目標温度：20～25℃)
手元温度と設定温度の差が大きい	部屋の大きさの違いやリモコンの位置によって、手元温度と設定温度の差が生じたためです。手元温度はリモコンで測定した温度のため、設定温度と差が生じることがありますが、故障ではありません。

それでも解決できないときは

お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。



警告

●自分で分解・修理・改造しないでください。

表示パネルに英数字のコードが表示されたら・・・

英数字コード	原因・処置
イー・ユー エフ・ロク エフ・ハチ EU F6 F8 エフ・キュウ エフ・エイチ F9 FH など	エアコンに過度の負担がかからないように制御しているときの表示で、 故障ではありません 。
エフ・オー Fo	強制運転中のときの表示です。 故障ではありません 。 約25分経過すると運転は冷房継続しますが、コードの表示は消えます。運転を停止する場合は室内機本体の「運転／停止」ボタンを再度押すと停止します。
エフ・ゼロ F0	運転を停止し、電源プラグを抜いて10分程待って接続しなおしてください。それでも表示が変わらないようであれば、ガスリーク（冷媒もれ）や、時間をかけて徐々に冷媒がもれる（スローリーク）場合もあります。このような場合は、施工業者の配管工事時の問題の可能性があります。お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。
イー・ハチ E8	高温保護が働いている状態です。 冷房定格能力が2.2kW～3.6kWタイプのエアコンについては、フィルターが汚れている場合にもこのエラーが出る場合があります。一度フィルターの清掃を試してください。 それでも改善されない場合や、4.0kW以上のタイプの製品は、アイリスコールにお問い合わせください。 ※電源プラグの抜き差しで一時的に回復することがありますが、再発の確率が高いため、アイリスコールにお問い合わせください。
その他の英数字コード	表示パネルに表示されている英数字コードをメモしていただき、アイリスコールにお問い合わせください。

長期使用製品について

長期間の使用により以下のような症状が見られた場合は、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

- 通常使用時に室内機から水がもれる
- 電源コードが折れ曲がったり、破損したりしている
- 据付に問題がなく、リモコンに新しい電池を入れても、リモコンで操作ができない
- 電源コードに触れると電源が切れたり入ったりする
- ブレーカーが頻繁に切れる
- こげたようなにおいがする



使用中止

すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

■ 設計上の標準使用期間について

JIS基準に基づく標準的な使用条件下で使用した場合に、安全上支障なく使用することができる標準的な期間を、製品本体に表示してあります。無料修理を行う保証期間とは異なります。

		冷房	暖房
環境条件	電源電圧	製品の定格電圧による	
	周波数	50 / 60Hz	
	温度（室内）	27℃（乾球温度）	20℃（乾球温度）
	湿度（室内）	47%（湿球温度：19℃）	59%（湿球温度：15℃）
	温度（室外）	35℃（乾球温度）	7℃（乾球温度）
	湿度（室外）	40%（湿球温度：24℃）	87%（湿球温度：6℃）
	設置条件	据付工事説明書による標準的な設置	
負荷条件	住宅	木造平屋、南向き和室、居間	
	部屋の広さ	製品能力に見合った広さの部屋	
想定時間	1年間の使用日数（東京モデル）	6月2日から9月21日までの 112日間	10月28日から翌年4月14日までの 169日間
	1日の使用時間	9時間／日	7時間／日
	1年間の使用時間	1,008時間	1,183時間



注意

製品の劣化や故障は様々な要因に影響されます。表記の標準使用期間に満たないときでも、上記のような異常が見られたときには、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

仕様

型番	室内機		IHF-2206G	IKF-223G	IHF-2506G	IHF-2806G
	室外機		IHR-2206G	IKR-223G	IHR-2506G	IHR-2806G
電源			単相100V、50/60Hz			
電源プラグ形状			㊦			
冷房	定格能力		2.2kW (0.5～2.8kW)		2.5kW (0.5～3.0kW)	2.8kW (0.5～3.5kW)
	定格消費電力		490W (150～850W)		620W (150～950W)	670W (150～1150W)
	定格運転電流		5.8A		7.3A	8.3A
	運転音 (音響パワー レベル)	室内機	61dB		62dB	62dB
		室外機	59dB		60dB	61dB
	面積の 目安	鉄筋アパート 南向き洋室	15㎡ (9畳)		17㎡ (10畳)	19㎡ (12畳)
木造南向き和 室		10㎡ (6畳)		11㎡ (7畳)	13㎡ (8畳)	
暖房	定格能力（標準）		2.5kW (0.6～3.7kW)		2.8kW (0.6～4.1kW)	3.6kW (0.6～4.6kW)
	定格標準消費電力		560W (120～1243W)		620W (120～1300W)	870W (120～1356W)
	定格運転電流		6.6A (最大15.0A)		7.4A (最大15.0A)	10.3A (最大15.0A)
	運転音 (音響パワー レベル)	室内機	60dB		61dB	61dB
		室外機	59dB		60dB	60dB
	面積の 目安	鉄筋アパート 南向き洋室	11㎡ (7畳)		13㎡ (8畳)	16㎡ (10畳)
		木造南向き和 室	9㎡ (6畳)		10㎡ (6畳)	13㎡ (8畳)
通年エネルギー消費効率 (JIS C 9612：2013)			5.8			
区分名			A			
外形寸法	室内機	幅770×奥行230×高さ290mm				
	室外機	幅675(+57 ^{*1})×奥行285×高さ552mm				
質量	室内機	9.0kg		9.5kg	9.5kg	
	室外機	26.0kg		26.0kg	28.0kg	
待機電力			5W			
電流ヒューズ	室内機	T3.15AH 250V				
	室外機	T30AH 250V				
温度ヒューズ	室内機	102℃ 250V				

※ 商品の仕様は予告なく変更することがあります。

※ J-Moss (JIS C 0950 : 2008) の規定に基づき、対象となる6物質 (鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE) の含有について情報を公開しています。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.irisohyama.co.jp/company/socialactivity/j_moss/

※¹ バルブカバーを含んだ寸法です。

仕様

型番	室内機		IHF-3606G	IHF-4006G	IHF-5606G
	室外機		IHR-3606G	IHR-4006G	IHR-5606G
電源			単相100V、50/60Hz	単相200V、50/60Hz	
電源プラグ形状					
冷房	定格能力		3.6kW (0.5 ～ 3.8kW)	4.0kW (0.8 ～ 4.9kW)	5.6kW (0.8 ～ 6.9kW)
	定格消費電力		1100W (150 ～ 1350W)	1100W (180 ～ 1500W)	1570W (380 ～ 2520W)
	定格運転電流		13.1A	5.6A	7.9A
	運転音 (音響パワー レベル)	室内機	63dB	63dB	63dB
		室外機	63dB	63dB	66dB
	面積の 目安	鉄筋アパート 南向き洋室	25㎡ (15畳)	28㎡ (17畳)	39㎡ (23畳)
		木造南向き和 室	16㎡ (10畳)	18㎡ (11畳)	25㎡ (15畳)
暖房	定格能力（標準）		4.2kW (0.6 ～ 4.8kW)	5.0kW (0.9 ～ 6.6kW)	6.7kW (2.6 ～ 9.2kW)
	定格標準消費電力		1130W (120 ～ 1582W)	1320W (200 ～ 2260W)	1950W (550 ～ 3028W)
	定格運転電流		13.1A（最大20.0A）	6.7A（最大15.0A）	9.8A（最大15.0A）
	運転音 (音響パワー レベル)	室内機	62dB	64dB	64dB
		室外機	64dB	65dB	68dB
	面積の 目安	鉄筋アパート 南向き洋室	19㎡ (12畳)	23㎡ (14畳)	30㎡ (18畳)
		木造南向き和 室	15㎡ (9畳)	18㎡ (11畳)	24㎡ (15畳)
通年エネルギー消費効率 (JIS C 9612：2013)			4.9		5.0
区分名			C		F
外形寸法	室内機	幅770×奥行230×高さ290mm			
	室外機	幅675(+57 ^{*1})×奥行285 ×高さ552mm	幅745(+57 ^{*1})×奥行300 ×高さ555mm	幅889(+69 ^{*1})×奥行340 ×高さ660mm	
質量	室内機	9.5kg	10.0kg	10.5kg	
	室外機	28.0kg	30.5kg	45.0kg	
待機電力			5W		6W
電流ヒューズ	室内機	T3.15AH 250V			
	室外機	T30AH 250V	T15AH 250V	T25AH 250V T3.15AH 250V	
温度ヒューズ	室内機	102℃ 250V			

※ 商品の仕様は予告なく変更することがあります。

※ J-Moss (JIS C 0950 : 2008) の規定に基づき、対象となる6物質 (鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE) の含有について情報を公開しています。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.irisohyama.co.jp/company/socialactivity/j_moss/

※¹ バルブカバーを含んだ寸法です。

保証とアフターサービス

必ずお読みください。

■ 保証書

お買い上げの際に、所定の事項が記入されている保証書をお買い上げの販売店より必ずお受け取りください。
保証書がないと、保証期間内でも代金を請求させていただく場合がありますので、大切に保管してください。

■ 保証期間

保証期間は、保証書に記載されています。
保証期間内に故障した場合は、保証規定にしたがって修理させていただきます。

■ 保証期間経過後の修理

お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合は、
ご要望により有料にて修理いたします。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、9年間保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ アフターサービスについて

ご不明な点はお買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。

長年ご使用のルームエアコンの点検を！		
愛情点検 	こんな症状はありませんか	● 電源プラグ・電源コードが異常に熱くなったり、変色したり、こげくさいにおいがする ● ブレーカーが頻繁に落ちる ● 架台（置き台）や吊り下げなどの取付部品が腐食していたり、ゆるんだりしている ● 室内機から水もれする ● 電源コードに破れがある ● 運転音が異常に大きい ● ボタンの操作が不確実 ● その他の異常や故障がある
		ご使用中止 故障や事故防止のため、すぐに運転を停止し、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはアイリスコールに点検修理をご相談ください。

アイリスオーヤマ株式会社 〒980-8510 仙台市青葉区五橋2丁目12番1号
ホームページ <https://www.irisohyama.co.jp/>

製品に関するお問い合わせ(通話料無料)

アイリスコール 0800-919-0770

9:00～17:00(年末年始・会社都合による休日を除く)

●お問い合わせの際は、製品の型番をお調べいただき、取扱説明書・ご購入履歴のわかるもの・メモのご用意をお願いします。

お客様サポート
24時間365日
Web即時回答サービス



ルームエアコン据付工事説明書

室内機	IHF-2206G	IHF-2506G	IHF-2806G	IHF-3606G	IHF-4006G	IHF-5606G	IKF-223G
室外機	IHR-2206G	IHR-2506G	IHR-2806G	IHR-3606G	IHR-4006G	IHR-5606G	IKR-223G
室内機	IAF-2206GV	IAF-2806GV	IAF-4006GV	IAF-5606GV			
室外機	IAR-2206GV	IAR-2806GV	IAR-4006GV	IAR-5606GV			

安全上の注意

この「安全上の注意」をよく読んでから据付してください。
据付工事説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

- 据付工事・移設・廃棄は、お買い上げの販売店または据付専門業者に依頼する
自分で据付すると、火災・破裂・感電・けが・水もれの原因になります。
- 据付工事は、冷媒R32用またはR410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付工事説明書に従って確実に行う
専用の配管部材を使用しなかったり、据付に不備があると、火災・破裂・感電・けが・水もれの原因になります。
- 据付は、強度を確認し、重量に十分耐える場所に確実に行う
耐荷重不足や取り付けが不完全なときは、機器の落下により、けがの原因になります。
- 室外機は、ベランダの手すりの近くに据付しない
子どもが上に登り、手すりを乗り越えて、落下事故につながります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」、および据付工事説明書にしたがって施工し、必ず専用回路を使用する
また、電圧は製品の定格電圧に合わせる
電源回路容量不足や施工不備があると、火災・感電の原因になります。

- 室内外機間の配線は、途中接続やより線の使用はせず、所定のケーブルを使用して確実に行う
配線が不完全なときは、発熱・火災・感電の原因になります。
- 室内外機間の配線は、端子カバーを確実に取り付けて配線を固定し、端子接続部に外力が伝わらないようにする
カバーの取り付けが不完全なときは、端子部の発熱・感電・火災の原因になります。
- 据付工事部品は、必ず付属部品または指定の部品を使用する
使用しないと、機器の落下・水もれ・火災・感電の原因になります。
- エアコンの据付や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R32）以外の空気などを混入させない
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂によるけがなどの原因になります。
- 据付工事完了後、冷媒ガスがもれていないことを確認する
冷媒ガスが室内にもれ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

- 作業中に冷媒ガスがもれたときは換気をする
冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- アース工事を行う
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全なときは、感電の原因になります。
- 浴室など、水がかかったり、湿気が多い場所には据付しない
感電・火災の原因になります。
- 電源プラグを差し込むときは、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもほこりの付着・詰まり・がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む
ほこりの付着・詰まり・がたつきがあると、火災・感電の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
- 据付作業では運転する前に、次のことを確認する
・配管接続は確実に取り付け、もれがないこと
・2方弁・3方弁両方とも開いていること
2方弁・3方弁が閉まった状態で圧縮機を運転すると、異常高圧となり圧縮機などの部品の破損の原因になります。また接続部でもれがあると、空気を吸い込むなどして、さらに異常高圧となり、破裂・けがの原因になります。

- ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う
・冷凍サイクル内に空気を混入させない
・2方弁・3方弁両方とも閉じた後、圧縮機を停止させ冷媒配管を外す
圧縮機を運転したまま2方弁・3方弁が開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になって、破裂・けがなどの原因になります。
- 電源コードは、極端に折り曲げたり、束ねたりしない
また、加工・途中接続・タコ足配線はしない
接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災・感電の原因になります。
- 指定冷媒以外は使用（冷媒補充・入れ替え）しない
指定以外の冷媒を使用すると、機器の故障・破裂・けがなどの原因になります。
- 室内機を持つときは、前面パネルに手を掛けない
作業中に前面パネルが開き、機器の落下によりけがの原因になります。
- 漏電遮断器を取り付ける
漏電遮断器が取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。



注意

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生する内容を示しています。

- ドレン工事は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう配管する
屋内に浸水し、家財等をぬらす原因になることがあります。

- フレアナットは、トルクレンチを使用し、指定の方法で締め付ける
フレアナットを締め付けすぎると、長期間経過後フレアナットが割れ、冷媒もれの原因になります。
- 据付作業では手袋を着用する
着用しないと、部品などでけがをすることがあります。（*軍手などの厚手の手袋）

- 室外機の吸込口やアルミフィンに触らない
けがの原因になります。
- 新築物件・リフォームなどの内装工事や、床面のワックス掛け時には、エアコンを運転しない
ワックスなどの揮発成分がエアコン内部に付着し、水もれや水飛びの原因になります。作業終了後は、エアコンを運転する前に十分に換気を行ってください。

- 室外機は、小動物のすみかになるような場所には据付しない
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、火災・故障の原因になることがあります。また、お客様には、周辺をきれいに保つことを依頼してください。



この家庭用エアコンには、GWP（地球温暖化係数）が675のフロン類（R32）が封入されています。フロン類が排出されると地球温暖化が進みます。移設・修理・廃棄するときは、フロン類の回収が必要です。修理については販売店またはアイリスコールへお問い合わせください。

据付工事完了後、「12 試運転」と「13 点検」の確認を行い、本説明書をお客様にお渡しください。
また、本説明書は、取扱説明書とともに保管していただくように、お客様に依頼してください。

廃棄に関する注意

家電リサイクル法では、お客様が使用済みのルームエアコンを廃棄される場合は、収集・運搬料金、再商品化等料金をお支払いいただき、対象商品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。

- このエアコンは、冷媒R32を使用しています。
据付にはR32もしくはR410A対応の工具を使用してください。

同梱付属部品

室内機用（室内機に同梱）

- ① 据付板



1枚
- ② 据付板取付ねじ（長さ25mm）



5本
- ③ リモコン



1個
- ④ 乾電池（単4形）



2本
- ⑤ フレアナット
φ6.35mm（1/4"）



1個
- ⑥ フレアナット
22~4.0kW: φ9.52mm（3/8"）
5.6: φ12.7mm（1/2"）



1個

室外機用（室外機に同梱）

- ⑦ 音声リモコン※



1個
- ⑧ 音声リモコン用アダプター※



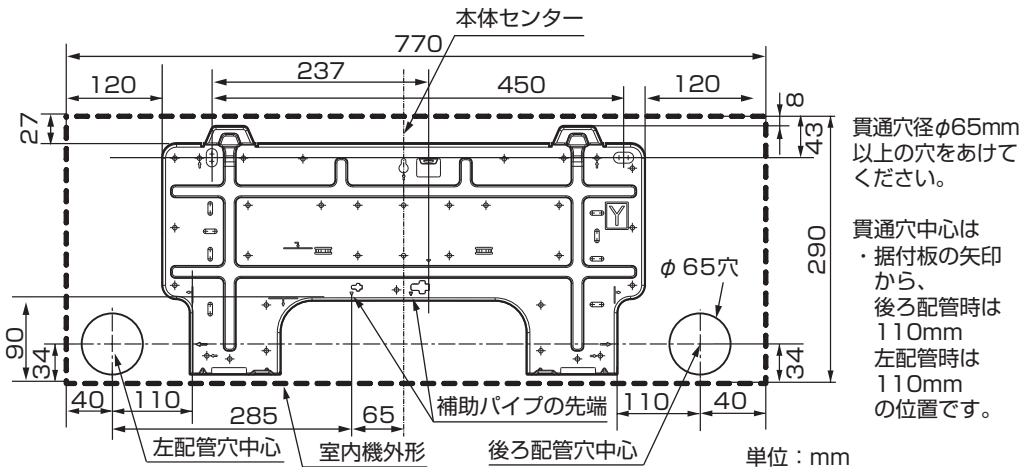
1個
- ⑨ ドレン口



1個

付属品	個数
据付工事説明書	1
取扱説明書	1
保証書	1

穴あけ寸法図



アイリスオーヤマ株式会社

製品に関するお問い合わせ（通話料無料）

アイリスコール 0800-919-0770

9:00～17:00（年末年始・会社都合による休日を除く）

●お問い合わせの際は、製品の型番をお調べいただき、取扱説明書・ご購入履歴のわかるもの・メモをご用意をお願いします。

〒980-8510 仙台市青葉区五橋2丁目12番1号
ホームページ <https://www.irisohyama.co.jp/>

お客様サポート

24時間365日
Web即時回答サービス



据付場所の選定

- 据付場所の選定
- 以下の条件を満たしていること —

室内ユニット

- 据付板の周囲に「穴あけ寸法図」に示した間隔が取れる
- 吸込口、吹出口の近くに障害物がない
- 重量に耐える
- 直射日光が当たらない
- 冷風（温風）が部屋全体に行きわたる
- 高周波機器、無線機器等の影響を受けない
- テレビやステレオなどの機器から1m以上離れている（映像の乱れや雑音が入ることがあります。）
- カーテンボックス、カーテンレールから離れている
- 吹出口と火災警報器は、1.5m以上離す
- 浴室など、水がかかったり、湿気が多い場所を避ける
- 室内ユニットの下面から床まで1.8m以上離す

室外ユニット

- 周囲に、右図で示した間隔が取れる
- 強風が当たらない（特にビルの屋上では、風が強く室外ファンが破損することがあります。）
- 風通しがよく吸込口・吹出口の近くに障害物がない
- ユニットの重量に十分耐える場所で水平位置が保てる
- 運転音や振動が増大しない
- 可燃性ガスのもれるおそれがない
- 排水されたドレン水が流れても問題ない
- 接続配管の長さ、室内外ユニットの許容落差は次の通りとすること

機種名	接続配管長さ	落差
IHF-2206G／ IHF-2506G／ IHF-2806G／ IHF-3606G／ IHF-4006G／ IKF-223G／ IAF-2206GV／ IAF-2806GV／ IAF-4006GV	15m (ただし10m以上は 冷媒補充が必要)	10m
IHF-5606G／ IAF-5606GV	25m (ただし10m以上は 冷媒補充が必要)	10m

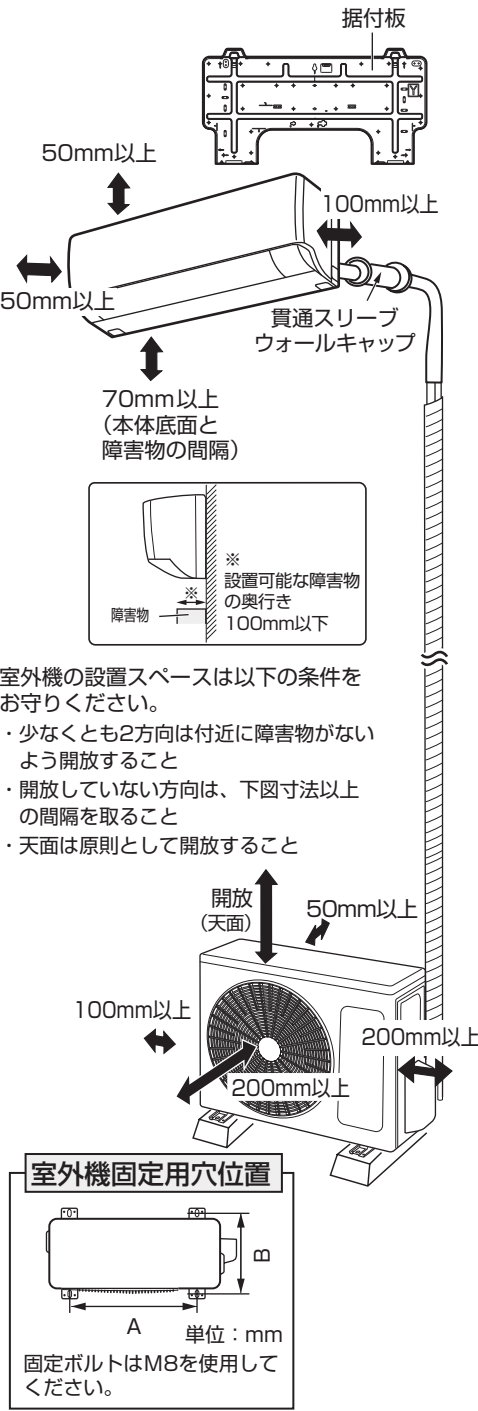
※冷媒は、延長1m当たり20g補充してください。
・雨や直射日光が当たる場所への据付には、市販の「日除け屋根」をご利用ください。

以下のような場所は避けてください。

- 塩害地や、ビル上層部など、常時強風が当たる
- 油・蒸気・油煙・腐食性ガスが発生する
- 温泉地のように硫化ガスが発生する

お願い

公団アパートやマンションなどの鉄筋コンクリート造建築物で、室外機を、ベランダ・天井から吊り下げて据付するときは、室外機と天井のすき間を80mm以上空けてください。また、室外機と据付具の間に防振ゴムを入れてください。



単位：mm		
	A	B
2.2/2.5/2.8/3.6kW	455	310
4.0kW	513	331
5.6kW	570	371

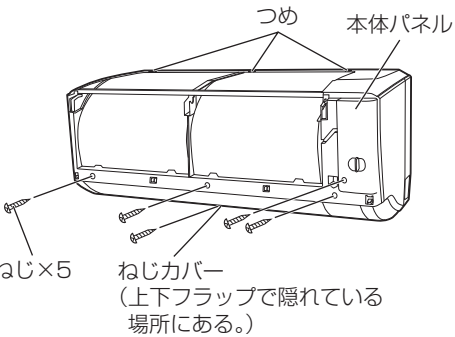
- 据付場所に余裕があれば、効率の良い運転のためにできるだけ広く取ってください。
- 市販の配管カバーを取り付ける際は、管を押さえつけないようにご注意ください。(水もれ等の原因)

本体パネル・前面パネル・上下フラップの取り外しかた

本体パネル・前面パネル・上下フラップを取り外すときは、運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。通常、本体パネル・前面パネル・上下フラップを取り外す必要はありません。

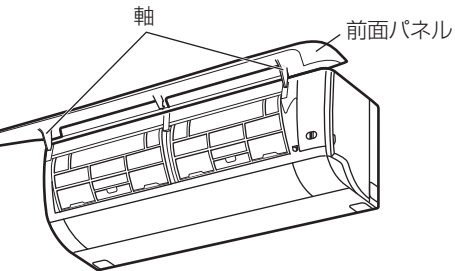
■ 本体パネルの取り外しかた

- ① **ねじ（5本）を外し、本体パネルを取り外してください。**
上面のつめ（3か所）を押さえてロックを外し、手前に引き抜きます。



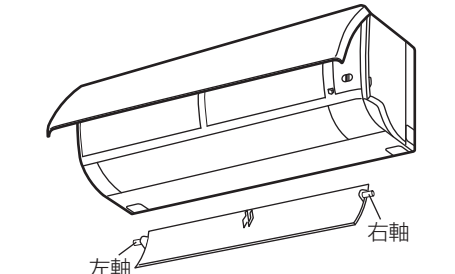
■ 前面パネルの取り外しかた

- ① **前面パネルを開ける**
② **左右の軸を内側に押して外し、前面パネルを手前に引き抜く**



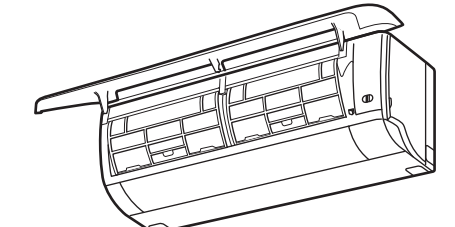
■ 上下フラップの取り外しかた

- ① **中央の軸を押して取り外す**
② **左→右の順に軸を外して、上下フラップを取り外す**



■ 本体パネル・前面パネル・上下フラップの取り付けかた

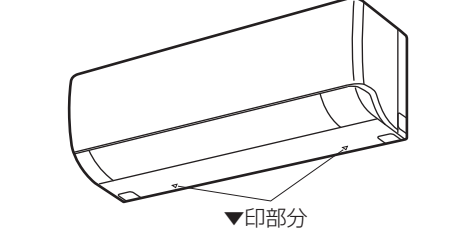
取り外しの逆の手順で行ってください。



据付後の取り外しかた

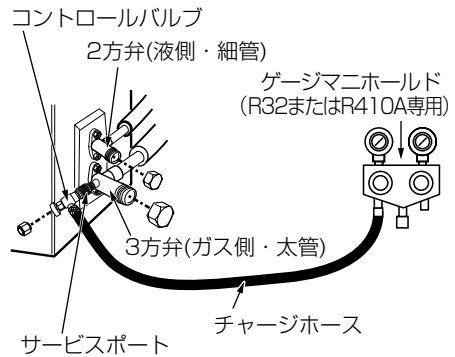
■ 室内ユニット

- 本体底面の▼印部分(左右2か所)を押し上げ、つめを浮かせながら本体を手前に引いてください。本体底面のつめが据付板から外れます。



■ 室外ユニット

- ポンプダウン（冷媒回収）をしてから取り外します。
- ① 3方弁のサービスポートにコントロールバルブを介してチャージホースと圧力計（ゲージマニホールド）を取り付ける
 - ② エアコンを強制冷房運転させる（5～10分間程度）
暖房運転ではポンプダウンはできません。
 - ③ 2方弁を全閉にする
 - ④ 圧力計が、ほぼOMP_a (0kgf/cm²) になるのを確認後、3方弁を全閉にし、エアコンの運転を停止させる
長時間、運転し続けると故障の原因になります。
 - ⑤ 圧力計（ゲージマニホールド）、接続配管を外す



警告

ポンプダウン作業では、次のことに注意してください。
● 冷凍サイクル内に空気を混入させない
● 2方弁・3方弁を両方とも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管を外す
破裂・けがなどの原因になります。圧縮機を運転したまま2方弁・3方弁が開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になるためです。

■ 既設配管を再利用のときの注意

- 古いエアコンを取り外すときは、必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行ってください。
- 配管肉厚が0.8mmあること（JIS規格の配管）
- フレアはR32対応に切り直してください。
- ポンプダウンができないとき・配管内が極端に汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。
- 施工には、R32対応の工具を使用してください。
- 一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このときは、買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。
- 配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などがないか、点検してください。
- 配管以外の部材（断熱材や配管支持部材など）も再使用可能か点検してください。
- 再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。

据付のながれ

- 1 据付板の取り付け・配管穴あけ
- 2 電気工事
- 3 ドレンホースの付け替え（左配管の場合）
- 4 室内機のユニット間配線
- 5 配管の引き出し・室内機の取り付け
- 6 室内機のドレン工事
- 7 室外機のドレン工事
- 8 配管接続
- 9 エアパージ・冷媒もれ確認
- 10 室外機のユニット間配線
- 11 アース工事・漏電しゃ断器
- 12 試運転（必ず行ってください）
- 13 点検

1 据付板の取り付け・配管穴あけ

■ 据付板の取り付け

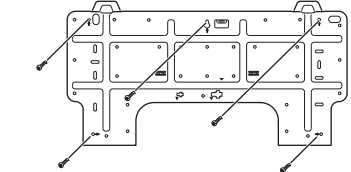
据付板は水準器をあてて、水平に取り付けてください。



壁に直接取り付ける場合

- 取付ねじを5本以上で固定してください。(5本同梱しています。必要に応じて追加してください。)
- 据付板固定位置にねじ止めすることをおすすめします。

据付板固定位置：5か所
(←の刻印があります)



- 板壁内の構造物(間柱、桟等)を利用し取り付けてください。
- 間柱等をさがすが困難な場合は、ボードアンカー(市販品)等をご使用ください。

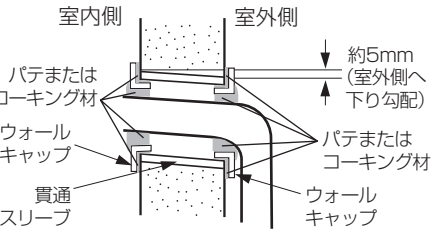


- 壁が石膏ボードの場合、壁厚に応じた樹脂製のカサ式ボードアンカーをご使用ください。**ねじ込み式は使用しないでください。**(保持強度が極端に落ちる場合があります。)

- 取り付け後、手で引っ張って強度を確かめてください。
 - 住宅公団等、埋込みボルトがある場合は、公団用取付穴を利用して取り付けてください。
- 回り縁と鴨居につける場合**
取付アングル(市販品)を使用してください。

■ 配管穴あけ

- ①壁に穴を室外側に下り勾配にあける(ドレン排水のため)
- ②貫通スリーブ、ウォールキャップを取り付ける



- 接続ケーブルや配管の保護、小動物の侵入防止、結露による水もれ防止のために、必ず使用してください。
 - メタルラス、ワイヤラス等、金属を使っている壁は、必ず使うように電気設備技術基準で定められています。
- ③すき間をパテまたはコーキング材でシールする**
- 化粧カバー仕上げの場合も必要です。
 - シールが不完全な場合、雨水の浸入による壁内部の腐食や外気の流入による結露の原因となります。

2 電気工事

- 電源はルームエアコン専用とし、エアコン専用コンセントを電源コードの届くところに据付してください。
- コンセントは新しいものを使用してください。
- プラグの交換や延長などの電源コード改造や、延長コードの使用は絶対にしないでください。故障や火災の原因になります。
- 電源コードをビニールテープなどで巻いて収納しないでください。
- 電源電圧を必ず確認してください。

電源コードの長さ

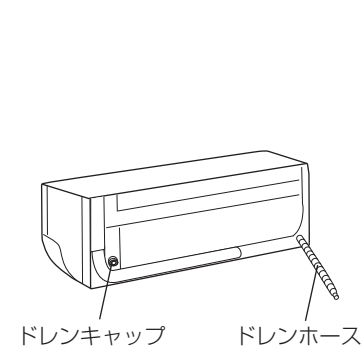
電源について

電源方式	左出し	右出し	電源方式	コンセント定格・マーク・形状
単相100V	Ⓜ	1.0m	1.6m	単相100V 100V 15A Ⓜ Ⓜ
単相100V	Ⓜ	1.0m	1.6m	単相100V 100V 20A Ⓜ Ⓜ
単相200V	Ⓜ	0.9m	1.5m	単相200V 200V 15A Ⓜ Ⓜ

- 電源回路容量に十分余裕のあるように配線工事を行ってください。また、機種と据付場所によっては感電防止のため漏電遮断器の取り付けが法規上必要な場合があります。

3 ドレンホースの付け替え(左配管の場合)

左配管の場合、本体パネルを外して、ドレンホースを付け替えてください。

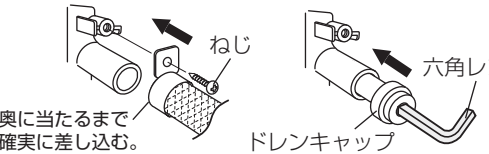


- 1.ねじを外し、ドレンホースを引き抜く
- 2.ドレンキャップを引き抜く



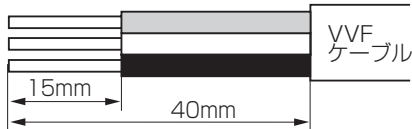
3.ドレンホースとドレンキャップを付け替える

- ・ドレンホースは、確実に差し込み、ねじ止めます。
- ・ドレンキャップは、六角レンチ(対辺4mm)を使って、奥まで差し込んでください。

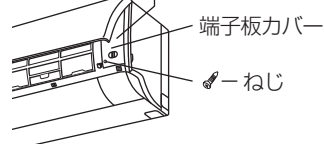
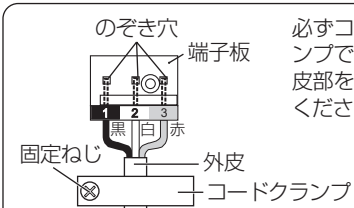


4 室内機のユニット間配線

- ①ユニット間配線を下図のように加工する
ユニット間配線は、φ2.0mm VVFケーブル(3心)を使用してください。



- ②前面パネルを開け、端子板カバーを外す
- ③固定ねじを取り外し、コードクランプを外す
- ④ユニット間配線の接続をする
 - ・ユニット間配線の心線を、端子板の奥まで確実に挿入してください。(のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。)
 - ・端子番号に注意してください。誤配線すると内部の制御回路が破損します。
- ⑤コードクランプと固定ねじでユニット間配線を固定する
- ⑥端子板カバーを取り付け、前面パネルを閉める



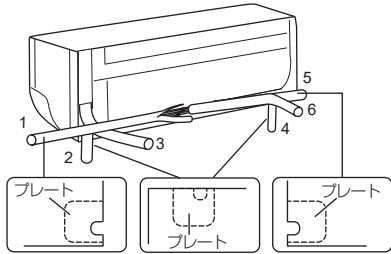
警告

- より線およびφ1.6mm VVFケーブルは使用しないでください。接触不良、通信不良の原因となります。
- VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでください。接触不良を起こして、火災の危険があります。

5 配管の引き出し・室内機取り付け

■ 配管の引き出し

- 1、2、4、5 の方向のときは、プレートを取り取ってください。
- ・切り取り時、本体内部の配線(電源コード、ユニット間配線)、ドレンホース、補助パイプを傷つけないように注意してください。また、切り取り後は、これらを傷つけないよう、鋭い切断面は処理してください。

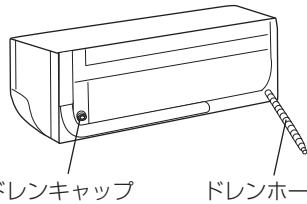


後・右・下配管の場合

- ①ドレンホース、補助パイプ、ユニット間配線を配管穴に通す
ドレンホースはトラップのないようにしてください。

左配管の場合

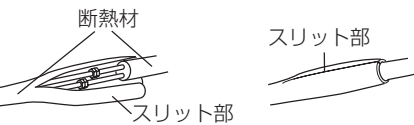
- ①ドレンホースとドレンキャップを付け替える
「3 ドレンホースの付け替え」参照



- 製品のドレンホースを必ず使用してください。
- ②配管を接続する「8 配管接続」参照
接続後、石けん水で冷媒もれを確認してください。

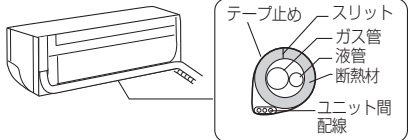
③配管とユニット間配線をテープで止める

断熱材のスリット部を上向きにして、すき間のないように密着させてビニールテープで巻いてください。配管の結露により、水もれの原因になります。



※スリット部を上向きにする

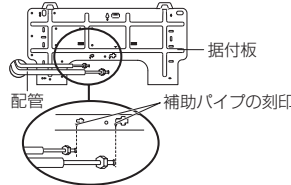
④本体背面に配管類を収納する。



- ⑤ドレンホースと配管、ユニット間配線をまとめて配管穴に通す
ドレンホースはトラップのないようにしてください。

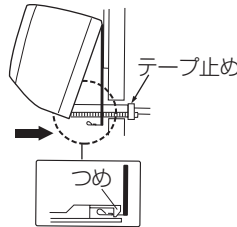
左配管時の配管の成形

据付板上の「補助パイプの刻印」にフレア先端部を合わせて成形します。



■ 取り付け

- ①本体上部を据付板に引っ掛ける
- ②本体下部を押し込んで固定する
固定後、本体下部を手前に引っ張り、確実に本体が固定されているか確認してください。



注意

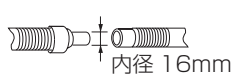
電源コードが余った場合、エアコン背面のスペースのあるところにゆったりと収納してください。

- 小さく折りたたんだり狭いところへ押し込まないでください。また、本体と据付板(とくに本体裏面のつめと据付板の受け部の間)にはさまないように注意してください。電源コードが破損し、発熱・火災の原因になります。
- 電源コードを室内機の上面にのせないでください。

6 室内機のドレン工事

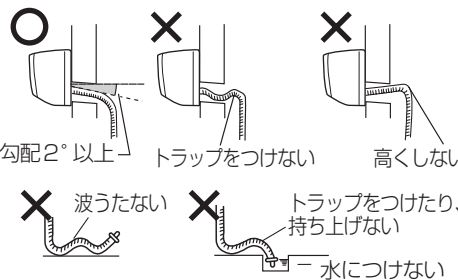
ドレン工事は、ドレン水が流れやすいように下り勾配をつけてください。(2°以上)

- ・ドレンホースを延長する場合は、内径16mmのホースを使用してください。



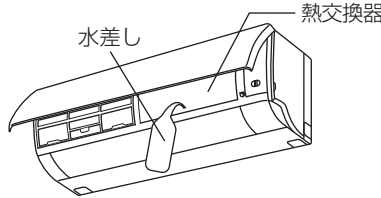
- ・ドレンホースが持ち上がったたり、トラップをつけたり、ホースの先が水につからないよう注意してください。水もれ、異音等の原因になります。
- ・延長したドレンホースが室内を通るときは、断熱材を巻いてください。

ドレンホースにトラップがあると、高气密住宅などで強い風を受けたときや換気扇などを使用した場合、「ポコポコ」という音が出ることがあります。トラップの修正をしてください。修正が困難な場合は対応部品として、エアコン用逆流防止弁(市販品)を取り付けてください。



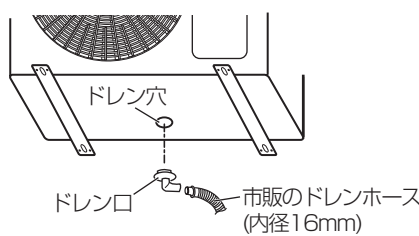
ドレン排水の確認

- ①前面パネルを開け、エアフィルターを外す
- ②水を熱交換器につたわせて、ゆっくり注入する
- ③ドレンホースから水が流れていることを確認する



7 室外機のドレン工事

暖房運転時、除霜等により室外機ドレン穴から水が流れ出ます。排水処理をする場合はドレン工事を行ってください。

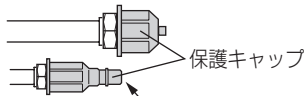


寒冷地でのお願い

寒冷地ではドレン水が凍結するので、ドレン工事は行わないでください。
寒冷地: 日中でも外気温0℃以下の日が2～3日連続する地域

8 配管接続

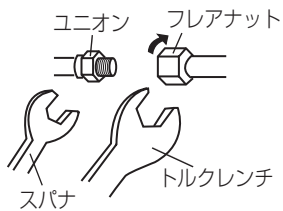
- ・接続配管は、「JIS H3300」に定める「リン脱酸銅継目無管（C1220T）」で、配管肉厚は0.8mmのものをご使用ください。
 - ・配管内への異物（油分、水分等）混入に十分ご注意ください。
 - ・通常は室内機側、室外機側の順に配管接続してください。
 - ・フレア面の内面のみ冷凍機油を塗布してください。
 - ・室内機の配管にフレアナットは取り付けられていません。
- 付属のフレアナットをお使いください
- ・室内機に窒素ガスが封入されています。細管側の保護キャップ先端をドライバーで押して窒素ガスを抜いてから、保護キャップを取り外してください。



先端を押して
窒素ガスを抜く

- ①フレアナットを3～4回手で締め付ける
- ②トルクレンチを使用し、指定の締付トルク値公差内でしっかりと締め付ける

トルクレンチとスパナを用い、2丁スパナ方式で締め付けてください。（締め付け不足、および締め付けすぎは、冷媒もれや変形・破損の原因となります。）



フレアナット締付トルク

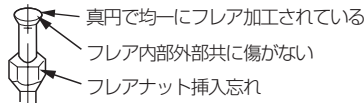
		2面幅		適合 トルク レンチ
		ユニオン	ナット	
細管側	φ6.35mm (1/4")	14mm	17mm	16±2N・m
太管側	φ9.52mm (3/8")	17mm	22mm	38±4N・m
	φ12.7mm (1/2")	19mm	26mm	55±6N・m

《既設配管再利用時のご注意》

- ・配管肉厚は0.8mmが前提条件です。（JIS規格の配管）
- ・フレアはR32/R410A用に必ず再加工してください。（下記「配管のフレア加工について」参照）

配管のフレア加工について

1. パイプカッターで配管を切断する
切断面は直角にしてください。
2. バリ取りする
切粉を管内に入れないようにしてください。
3. フレアナットを挿入する
フレアナットは必ずエアコン本体のものを使用してください。
4. フレア加工する
ダイスからの出し代(A)を正しくセットしてください。
出し代(A): 0～0.5mm
(R32またはR410A用フレア工具の場合)
5. 確認する



フレア加工は、正しく確実に行ってください。冷媒がもれる原因になります。

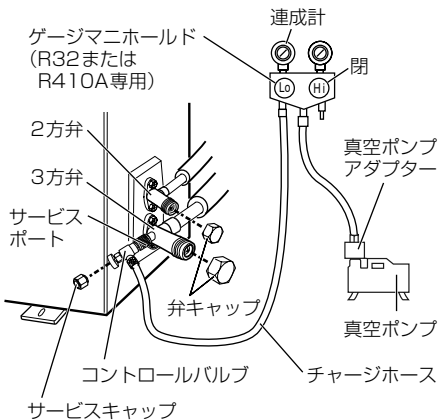
- ・古いエアコンが故障等により、ポンプダウンができない場合や配管内が極端に汚れている場合は、配管洗浄するか、新しい配管に交換してください。

9 エアページ・冷媒もれ確認

■ エアページ

地球環境保護の観点から、エアページは真空ポンプ方式でお願いします。

- ①太管側（3方弁）のサービスキャップを外す
- ②3方弁のサービスポートにコントロールバルブを介してゲージマニホールドのチャージホースを接続する
金具のついている側（虫ピンを押す側）を接続してください。
- ③ゲージマニホールドの低圧側バルブ（Lo）を全開にする
- ④真空引きを10～15分間行い、連成計が－0.1MPa（－76cmHg）になっていることを確認する
- ⑤ゲージマニホールドの低圧側バルブ（Lo）を全開にする
- ⑥真空ポンプを停止させる
1～2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認してください。（接続部のもれ確認のため）
- ⑦細管側（2方弁）、太管側（3方弁）の弁キャップを外す
- ⑧2方弁の弁棒を六角レンチ（2.2/2.5/2.8/3.6kWは4mm、4.0/5.6は5mm）を使って、反時計方向に90°開き、5秒後に閉じ冷媒もれの確認する
- ⑨サービスポートからゲージマニホールドを外す
- ⑩2方弁を全開にする
（当たりのあるところまで回してください。）
- ⑪3方弁を全開にする
（当たりのあるところまで回してください。）
- ⑫2方弁、3方弁の弁キャップとサービスキャップを取り付ける
トルクレンチを用いて、指定の締付トルク値公差内で、しっかりと締め付けてください。



弁キャップ締付トルク

	キャップの 2面幅	適合 トルクレンチ
細管側	φ6.35mm (1/4")	19 mm
太管側	φ9.52mm (3/8")	19 mm
太管側	φ12.7mm (1/2")	22 mm

サービスキャップ締付トルク

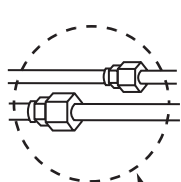
キャップの2面幅	適合トルクレンチ
17 mm	11±1N・m

■ 冷媒もれ確認

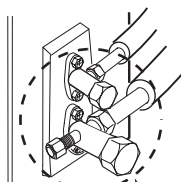
- ・室内機側はフレア部周辺を、室外機側はフレア部周辺・弁棒周辺を、石けん水を塗布してチェックしてください。
- ・チェック後は、ふき取ってください。
- ・リークディテクターで冷媒もれ確認をする場合はHFC冷媒対応のものを使用してください。

室内機側

室外機側



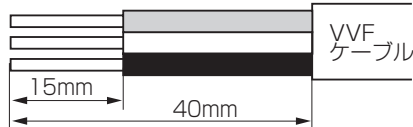
冷媒もれ確認



冷媒もれ確認

10 室外機のユニット間配線

①ユニット間配線を下図のように加工する



②端子板カバーを外す

③ユニット間配線の心線を端子板の奥まで確実に挿入する

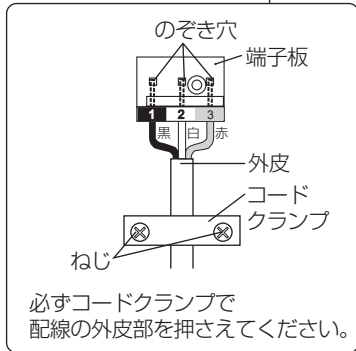
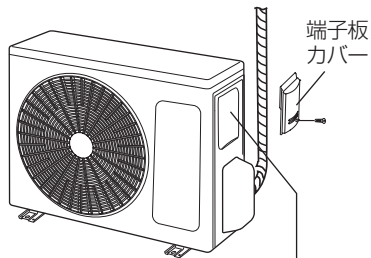
のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。

配線は必ず、室内機の端子板の番号と合わせてください。

④ユニット間配線の外皮をコードクランプとねじで固定する

⑤ユニット間配線が確実に固定されているか確認する

⑥端子板カバーを取り付ける



必ずコードクランプで
配線の外皮部を押さえてください。



警告

- VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでください。
- 中継器を使用すると接触不良を起こして、火災の危険があります。

11 アース工事・漏電しゃ断器

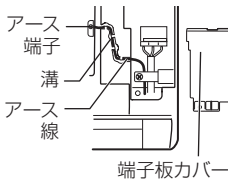
アース工事や漏電しゃ断器の取り付けは、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」にしたがって行ってください。

■ アース工事

必ずアース工事を行ってください。（行っていないと、通電時にエアコン本体に触れたとき、電気を感じる場合があります。）

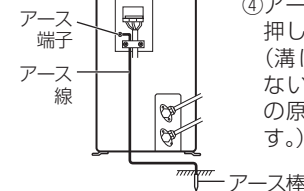
- ・アース工事は、**電気工事士の資格がある方が行ってください。**
- ・接地抵抗は100Ω以下にしてください。（漏電しゃ断器を取り付けた場合は500Ω以下にしてください。）
- ・アース棒およびアース線は市販品を使用してください。
- ・室内機・室外機のいずれか一方に対し、アース工事をしてください。
- ・製品に取り付けているアース端子以外のねじは絶対に使用しないでください。（配管の損傷により、冷媒がもれる原因となります。）

室内機（2.2、2.5、2.8、3.6kW機種に適用）



- ①前面パネルを開け、エアフィルターを外します。
- ②端子板カバーを外します。
- ③アース線をアース端子に接続します。
- ④アース線を溝に押し込みます。（溝に押し込まないと、水もれの原因になります。）

室外機



■ 漏電しゃ断器について

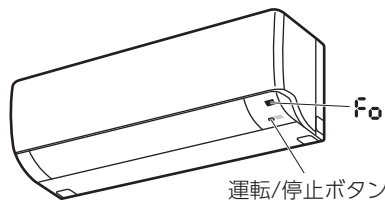
- ・万一漏電したときの感電防止のため、漏電しゃ断器を設置してください。
- ・漏電しゃ断器は、定格感度電流30mA以下、動作時間0.1秒以下の電流動作高感度高速タイプを使用してください。

12 試運転（必ず行ってください）

- ①本体の運転/停止ボタンを5秒以上押し続ける「Fo」と表示し、強制冷房運転をします。約25分後、「Fo」の表示は消えますが、冷房運転は続きます。

※強制暖房運転はできません。

- ②停止するときは、本体の運転/停止ボタンをもう一度押す



運転/停止ボタン

試運転中に下記症状になった場合は、
ご確認ください

「E6」表示：ユニット間配線が正しいか。
「PH」表示：電圧が正しいか。
冷風が出ない：2方弁、3方弁が開いているか。

13 点検 — 配管工事完了後 —

□の中に✓印を入れて確認し、このチェックシートをお客様にお渡しください。

- 据付場所は、エアコンの重量に十分に耐え、騒音や振動が増大しない場所です。
- 電源は専用回路を使用し、電源電圧に問題のないことを確認しました。
- 電源コードの中間接続や延長コードの使用、タコ足配線は行っていません。
- コンセントと電源プラグにがたつきはありません。
- 内外接続線の中間接続は行っていません。
- アース線の接続は確実に行いました。
- 壁穴部のシールは確実に行いました。
- 配管接続部のリークテストを行い、冷媒がもれていないことを確認しました。
- 配管は断熱材でしっかり覆い、テープでシールしました。
- 2方弁・3方弁両方の弁棒は全開にしました。
- 室内機に水を流して、確実に排水されることを確認しました。
- 試運転を行い、冷房・暖房運転が正常であることを確認しました。
- 取扱説明書をもとに、お客様に正しい取扱方法と運転方法を説明しました。

確認日： 年 月 日

確認者：

工事(施工)会社名：

問い合わせ先 電話番号：